

## 経営状況分析(Y)における指標について

各指標の計算結果は、小数点以下第4位を四捨五入する。

	記号	経営状況分析の指標	影響	算出式	上限値	下限値
負債抵抗力	X1	純支払利息比率	↓	$(\text{支払利息} - \text{受取利息配当金}) \div \text{売上高} \times 100$	5.1	-0.3
	X2	負債回転期間	↓	$\text{負債合計} \div (\text{売上高} \div 12)$	18.0	0.9
収益性・効率性	X3	総資本売上総利益率	↑	$\text{売上総利益} \div \text{総資本(2期平均)} \times 100$	63.6	6.5
	X4	売上高経常利益率	↑	$\text{経常利益} \div \text{売上高} \times 100$	5.1	-8.5
財務健全性	X5	自己資本対固定資産比率	↑	$\text{自己資本} \div \text{固定資産} \times 100$	350.0	-76.5
	X6	自己資本比率	↑	$\text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100$	68.5	-68.6
絶対的力	X7	営業キャッシュフロー	↑	$\text{営業キャッシュ・フロー} \div 100,000\text{千円 (2期平均)}$	15.0	-10.0
	X8	利益剰余金	↑	$\text{利益剰余金} \div 100,000\text{千円}$	100.0	-3.0

:低い方がよい数値      :高い方がよい数値

### ◎総資本売上総利益率について

- ・総資本 = 負債純資産合計
- ・総資本の2期平均値は、端数処理をしない。
- ・総資本の2期平均値が、3000万円未満であれば、3000万円として計算する。

### ◎売上高経常利益率について

- ・個人の場合は、経常利益 = 事業主利益

### ◎自己資本対固定資産比率 及び 自己資本比率について

- ・自己資本 = 純資産合計
- ・連結決算の場合は、自己資本 = 純資産合計 - 少数株主持分

### ◎営業キャッシュ・フローについて

営業キャッシュ・フロー = 経常利益 + 減価償却費 ± 貸倒引当金増減額 - 法人税住民税及び事業税  
 ± 売掛債権(受取手形+完成工事未収入金)増減額 ± 仕入債務(支払手形+工事未払金)増減額  
 ± 棚卸資産(未成工事支出金+材料貯蔵品)増減額 ± 未成工事受入金増減額

- ・営業CF(2期平均)は、営業CF(当期)と営業CF(前期)の平均
- ・増減額 : 基準決算の額 - 基準決算の直前の審査基準日の額

#### ※営業CFの増減の計算方法

- ( + ) 増加分はキャッシュイン
  - ・貸倒引当金(長期含む・正の数値で計算)
  - ・仕入債務
  - ・未成工事受入金
- ( - ) 増加分はキャッシュアウト
  - ・売掛債権
  - ・棚卸資産

- ・連結決算の場合は、営業キャッシュフロー = 連結キャッシュ・フロー計算書における「営業活動によるキャッシュ・フロー」の額

### ◎利益剰余金について

- ・個人の場合、利益剰余金 = 純資産合計

### 経営状況点数(A)の算出 …… 小数点以下第3位を四捨五入する。

$$A = -0.4650 \times (X1) - 0.0508 \times (X2) + 0.0264 \times (X3) + 0.0277 \times (X4) + 0.0011 \times (X5) + 0.0089 \times (X6) + 0.0818 \times (X7) + 0.0172 \times (X8) + 0.1906$$

### 経営状況点数(Y)の算出 …… 小数点以下第1位を四捨五入する。

$$Y = 167.3 \times A (\text{経営状況点数}) + 583$$

評点幅 : 最高点 1,595点 ~ 最低点 0点